



秋の七草

甲南大学教授

臼井英治

夏の渇きを潤す雨が上がる
と、野山には爽やかな風に揺
れるさまざまな秋草が目につ
くようになる。

秋の野に咲きたる花を
および折りかき数ふれば
七種の花

萩の花 尾花 葛花
なでしこが花おみなへし
また藤袴朝顔が花

秋草の中でも特に『万葉集』
で山上憶良が詠んだこの歌以

来、「秋の七草」は千二百年
の時を越えて日本人の心をと
らえてきた。

ハギは、*孳孳*とした優美さ
と、どこか淋しいなげまい、
ことに白露を置いた風姿が愛
好され、秋を代表する草にふ
さわしく、草冠に秋の「萩」
の和製文字が与えられた。若
い茎葉は飼料に、茎は垣根、
枝折戸などに利用された。

尾花はススキの花穂で、光
を受けて風にしなやかに揺ら
ぐ姿は雅趣に富む。秋が深ま
り、ほほけた白銀の穂波が夕
日に映える情景には寂寥感が
漂う。別名のカヤは「刈り屋
根」が語源といわれ、屋根を
葺く草の代表であった。
クズが初秋の風に吹かれて
白い葉裏を見せて翻る時、葉
陰に紫紅色の芳香のある花穂

がそく。強靱な蔓は網に、そ
の繊維は布に織られ、太い根
に含まれるデンプンは葛粉と
して今日まで利用されている。
ナデシコは繊細な花弁と薄
紅の初々しい色あいでひとき
わ目を引く。古来、この花が
女性にたとえられ、愛されて
きたことは頷ける。種子は漢
方で瞿麥子といい、利尿に用
いられた。

オミナエシも「女郎花」の
文字があてられているよう
に、女性になぞらえられた花
である。つつましく地味であ
るが、すらりと伸びた茎頂に
黄色い小花を輝かせて楚々と
揺れる。謡曲「女郎花」の悲
恋物語もオミナエシの風情を
よく伝えている。根は煎じて
解毒に用い
られた。

フジバカ
マは乾くと
芳香を放つ
ので、浴湯
料や洗髪に
用いられたり、身につけたり
された。しかし、現在では身
近に見かけることが少なくな



編集後記

本年度になってから、当財
団としての大きな行事である
文化関係助成の贈呈式と福武
哲彦教育賞・教育関係助成の
贈呈式を行いましたので、そ
の概要をこの号で報告しまし
た。なお、今年から新規事業
が大幅に増えましたので、順
次次号から報告する予定に
しています。

この号から一部をカラーに
することになりました。また、
外部からも寄稿していただ
き、見た目にも内容も一層親
しめるものになるよう努めま
した。今後、いろいろな方に
原稿を依頼したいと考えてい
ますのでご協力ください。

事務局の職員に異動がかな
りありました。戸惑うことが
多く、みなさまにご迷惑を
お掛けすることがあるかと思
いますが、一同協力して円滑
な事務の執行に努めますので
ご支援のほどよろしく願
います。(武)

【題字は谷口澄夫理事長書】

不 易

こんには

津山のおはなし

「しもやけライオン」

を上演した

みゅーじかる劇団

を訪問

昨年度と今年度、当財団の
文化関係助成を受けられた
「きんちゃん座」は、平成九
年の設立で、以後津山を中心
に活動されています。

今回は、代表の中山須美子
さんと座長の中西由美子さん
にお話を伺いました。

地元音楽大学の移転が決ま
り、寂しくなってしまうので
「何かおもしろいことをしよ
う」というのが始めるきっ
かけとなったそうです。だれ
もが何かに属することができ
るようにと歌、ダンス、お芝
居のほかには大道具などの裏方

もあるミュージカルに決定し
たとのこと。それも遠い外国
の題材ではなく、自分たちに
身近で分かりやすいもの、み
んなが楽しめるものを目指し
ていらっやいます。今年四
月には、地元動物園のライオ
ンの実話をもとに第二回公演
が行われました。

このほかにも
「津山ごんご祭
り」の踊り連に
参加したり、講
師を招いての合
宿をしたりと活
発な活動を続け
られています。
現在座員は、小
学一年生から七
十五歳までの総
勢三十五名です
が、やる気があ
れば、誰でも大
歓迎してくださ
るそうです。



「しもやけライオン」の一場面

第7号
平成12年9月30日
.....
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
印刷(株)シンプレス

「緞帳が下りたときの拍手
が最高なんです」と中西さん。
「たくさんの方の支援に比べ
られるよう、中身が伴なうよ
うにがんばります」と中山
さん。お二人ともパワーいっ
ぱいで、熱く語ってください
ました。(榎本)

がんばってます！ 保護者と子どもが共通体験 を重ねる 岡山市立 高島幼稚園 を訪ねて

梅雨が明けて間もない七月
二十四日、平成十年度と今年
度に教育研究助成を受けられ
た岡山市立高島幼稚園を訪ね
ました。緑の香に包まれた園
長室で、大野鈴子園長先生を
はじめ小竹順代先生や米田利
佐先生から研究テーマ「保護
者の子育てへの意識を高める
支援のあり方を探る」につい
てのお話を伺いました。

子どもたちの様子から「子
どもと保護者が共通の体験活
動をすること」の必要性を先
生方が最も強く感じ、そのよ
うな活動を通して保護者の方
に子どもの願いや求めている
ものを感じてもらいたいと思
えるようになったそうです。
そんな願いから先生方の絶
え間ない努力によって、トマ
ト栽培やグリーンシャワー公
園への遠足、親子絵本の会や



親子で自然体験活動

親子祭りなど、実に様々な共
通体験活動が計画され、地域
の方々の協力を得ながら実施
されていました。先生は、「体
験の中で感じる保護者のう
れしさや驚きは子どもにス
トレートに伝わります。また、
保護者と子どもが同じ立場で
学び、共に感動することから
親子が同じ目線で話ができる
ようになるんですよ。」と話し
てくださいました。
豊かな自然の中で体験活動
を重ね、子どもと保護者、そ
して地域の人々と共に歩ん
で行こうとする高島幼稚園の先
生方の熱意あふれるお話を時
間が過ぎるのも忘れて伺っ
ていただきました。(榎本)



二十一世紀に羽ばたく 福武教育振興財団

— 数学教育の立場から —

岡山大学名誉教授
坂田 注

七月三十一日から幕張(千葉)で開催された第九回数学教育世界会議に出席したところ、世界各国の参加者は日本の数学教育に対して敬意も言うべき深い関心を抱いていることがわかった。それは日本のレベルの高さに基因しているものと思われる。

そこでこの会議にアメリカのクリントン大統領からもメッセージが寄せられた。その主旨は次のようであった。「我々の教育制度が立ち向かうべき課題は、我々の子ども達の全てが、高いレベルの数

理的リテラシーを獲得できるようにすること。また全ての市民が、日常生活の正しい判断に必要な数理的素養を備えるようにすることである。」本財団もまた同様の考えに立脚して、諸事業を推進している。当日の会場で、はからずも岡山県からの参加者に出会い、「私達の研究が進んでいるのは、福武教育振興財団のおかげです」という感謝の言葉を頂いた。

その中の一人、川上公二氏(倉敷市立南中学校)は、大月一泰氏、平野圭一氏(両者とも岡山大学教育学部附属中学校)らと共同で研究をしている人である。

彼らは平成七年に「動的図形をとらえる教材開発」で当財団の助成を受けた。さらに研究を進め平成九年には「小学館コンピュータ教育奨励賞」を、平成十年には「松下視聴覚研究賞理事長賞」を受賞した。また同年グラフ電卓を用いた研究でオハイオ州立大学(米国)で研究発表を行った。

また他の一人、末広聡氏(岡山市立岡山後楽館高等学校)は平成八年「グラフから始まる関数の指導」で当財団の助成を受け、その後高校の微積分にグラフ電卓を活用した研究を続け、平成十一年にはオハイオ州立大学(米国)で、平成十二年には数学教育心理学研究国際会議(広島)で研究発表を行っている。この人達は、数学教育におけるテクノロジーの活用の研究で、我が国だけでなく、世界的にも高い評価を受けるまでに成長したのである。

ここでは数学教育の分野だけを例示したが、他の分野においても同様の傾向にあり、当財団の現場教育への貢献は著しいものがある。

このように、福武教育振興財団の広範囲にわたる各種事業は着々と成果を収めつつあるが、更にこれら諸事業の推進によって来るべき二十一世紀の岡山県、ひいては日本の教育がますます進展することを期待するものである。
(福武教育振興財団理事)

第四回

文化関係助成贈呈式

福武文化振興財団が行っている文化関係助成は、岡山県の文化振興のため、県内における文化関係諸活動に対して行われるものである。今年で四回を数えるこの贈呈式は六月十五日、岡山プラザホテルで行われた。

開式にあたり谷口澄夫理事長が「岡山県が文化振興ビジョンを策定し、これから実践しようとしている。このよう なとき、当財団も同じ目的で微力を果たそうとしている。ゼロ金利時代での財団も苦しい運営を迫られているが、当財団はできることは百パーセント実現に努力したい。それぞれの部門で活躍されている皆さんの活気ある活動を少しでも支援したい。」との事業の趣旨的説明があった。続いて、伝統文化部門の文化活動は十五〜三十万円が一人人と二十六団体に助成さ

れ、助成証書と目録が谷口理事長から手渡された。同部門の調査研究では三個人と五団体に三十万円を上限として助成された。現代文化部門では、三十一の団体・個人の文化活動に、調査研究では一個人と四団体にそれぞれ十



文化関係助成を受けられた方々とご来賓等

円から二十万円の助成金が贈られた。

特定文化事業助成としては、関谷学校創学三百二十年記念事業に対して特別史跡関谷学校顕彰保存会へ、岡山シンフォニーホール十周年記念事業に対して合計四百万円が贈られた。

次に、助成団体の代表として吉川八幡宮文化財保存会佐々木角朗氏、岡山日置流印西派研究会守田勝彦氏、ANNPバビシヤの小林美美子氏、坪田譲治文学の研究と翻訳出版で助成を受けられた劉迎氏らが活動の様子を報告された。

終わりに、歌舞伎研究会松神会の岡部利邦氏から助成団体を代表して謝辞が述べられた。

年々この事業に対する関心が高まり、本年度は応募者が昨年度の二割以上の増加となった。今年対象にならなかった方も続けて応募していただき、この事業がより多くの方々に身近な存在になればと念願している。(武)

第十四回

福武哲彦教育賞・ 教育関係助成贈呈式

岡山県下の教育界で優れた業績を上げている個人や学校等を顕彰する「福武哲彦教育賞」、教育研究や学校図書館の充実などの「教育関係助成」の贈呈式が七月十四日、岡山プラザホテルで行われた。

福武哲彦教育賞は教育研究とその実践に優れた成果をあげている学校園等を顕彰するもので、今年には原田三代治校長(岡山県山陽高等学校)、岡山県健康の森学園(竹本博明学園長)、岡山県立岡山東商業高等学校(藤田哲輔校長)の一人二団体に、谷口理事長から賞状と副賞(各六十万円)が贈られた。

教育研究助成は、教育現場の実践的研究を助成(各二十万円)するもので、今年には四十件が対象となった。図書助成は、二十八校園に計五百万円が贈呈された。

以上の表彰と助成は今年で

十四回目である。このほかに、今年度から次のような助成が加えられた。

現代の学校教育が抱える課題のうち、特に重要なものについて当財団がテーマを指定し、教育研究組織に研究を委託するものとして、「指定研究助成」を新規に設けた。「生きる力と豊かな心をはぐくむ『総合的な学習の時間』の創造と課題」というテーマで岡山県小中学校長会連絡協議会に、「子どもたち一人一人が学校生活によりよく適応できるようにするための実践的研究」と「生きる力をはぐくむカリキュラム開発に関する研究」の二つの主題について岡山県教育センターにそれぞれ研究が委託され、以上の三件に年間各百万円が三年間助成されることになった。

緊要な教育事業を特定して助成する「特定教育助成」に



英語教員研修助成・図書助成を受けられた先生方



福武哲彦教育賞・教育研究助成等を助成された方々

は、本年度開校した吉備高原希望中学校と岡山県私学協会に三年間、年間各三百万円が助成されることになった。

また、「英語教員研修助成」としては、小・中・高校の英語を指導する教員計二十名に受講料等を一人約五十万円、総額一千万円を助成した。

新規事業も含めてこれらの表彰や助成が、県下の学校教育充実の一助になることを念願している。また、来年度も多くの学校や先生方から積極的な応募があることを期待している。(武)

講演会のご案内

演題 「新しいシルクロードの探検」

講師 就実女子大学客員教授 長澤 和俊先生

日時 平成十二年十月二十七日(金) 十五時から

場所 岡山プラザホテル
参加費 無料